

中野城(日野城) (指定無) (蒲生郡日野町西大路)

歴史上では日野城と呼ばれるこのお城は、日野では古くから中野城と称しており、鎌倉時代の初期から約400年間における日野の領主蒲生家6万石の最後の本城でした。

東方音羽の城山に蒲生家の音羽城があった文亀大永の頃(1501~1523)に、この地に砦が造られたのがはじめてであり、その後、蒲生定秀が当主の頃天文2年(1533)から3年かけて本格的に築城され、同時にこの城の西側一帯の荒野に町割りをして日野の城下町をつくりました。

蒲生定秀の孫に当たる蒲生氏郷は、この城で弘治2年(1556)に生まれました。氏郷26歳の天正10年に本能寺の変で織田信長が討たれたとき、安土城にいた信長の妻妾一族をこの城へ迎え入れ、明智光秀の群を迎え撃とうとしたことは有名です。

天正12年豊臣秀吉の命によって蒲生氏郷が伊勢松ヶ島へ国替えとなり、52年間にわたる中野城と城下町繁栄の歴史は幕を閉じました。

昭和40年、日野川ダムの造成によって土塁などはこわされましたが、本丸と堀の一部が残され、その名残を留めています。

日野観光協会による

近江鉄道日野駅の東約4.5kmにある蒲生氏の居城跡。中野城ともいいます。築城以前の蒲生氏の城は、音羽丘陵上にありましたが、蒲生定秀(がもうさだひで)により戦国時代に日野城が築かれました。築城にあたっては、既存の日野市街を城下町とし、城のある西大路付近を武家屋敷地帯、日野市街を町屋敷地帯としたといえます。

明智光秀の謀反によって殺された織田信長の妻子が、身を寄せたのは日野城です。蒲生氏郷はこの城で生まれ、若くして戦国武将の器量を備えていたので、豊臣秀吉に抜擢されて伊勢松ヶ島12万石の領主となって日野城を去りました。江戸時代に廃城となり、付近の農民が開墾して城内はすっかり姿を変えました。城の遺構は、日野川ダムの建設により、現在ではほとんど見ることはできませんが、ダム北畔に本丸跡石垣が少し残っています。

滋賀観光情報による

蒲生定秀が天文2年(1533年)から3年ほどかけて日野の地に本格的に築城した。

蒲生氏は蒲生賢秀の代に織田信長の臣下となり、天正10年(1582年)、本能寺の変が起こった時には、賢秀とその子蒲生氏郷は織田信長の妻妾一族をこの城に迎え入れた。

天正12年(1584年)氏郷は伊勢国松ヶ島12万石に移封し、その後田中吉政、長束正家と城代が入り、慶長5年(1600年)関ヶ原の戦い以降廃城となった。

元和6年(1620年)市橋長政が中野城跡の一部に陣屋を構え仁正寺藩の陣屋として明治維新まで続いた。

遺構は、日野川ダムの建設時に大部分が破壊されたが、涼橋神社と稲荷神社の周辺に一部石垣や堀が残っている。遺構の残る主郭部の近くには、「蒲生氏郷公産湯の井戸」がある。また、仁正寺陣屋の建造物は、明治時代に西大路小学校校舎として使用された後、大正7年(1918年)に京都・相国寺の塔頭・林光院に移築され、方丈・庫裏として現存している。

ウィキペディアによる

